「県立学校の今後の在り方」についての
地方別懇談会

第6期きのくに教育審議会答申の概要について

令和２年９月２７日

第6期きのくに教育審議会答申の特徴

：本県高校教育の本質的課題を指摘
：今後15年間でなすべき方向性を明示

○今後15年の生徒減の中で、全ての子供・地域のニーズを満たし、本県の教育を保障していく最適解は何か。
○高みをめざす生徒への的確な教育が十分でなく、生徒の持てる力を発揮させることができていないのではないか。
○不登校や障害等で支援を必要としている生徒への適切な教育に課題があったのではないか。

キーワード:高校教育の「発展性」と「持続可能性」

⇒ ⇒ ⇒ 再編整備実施プログラムにつながる具体的で網羅的な答申内容　⇒　本年度末での策定を目標

課題（地域、高校が共に疲弊していく懸念）

人口減少が続く中・・・、

県立高校の小規模化が進行

↓

高校の活力や多様性が低下

↓

高校の魅力が低下

↓

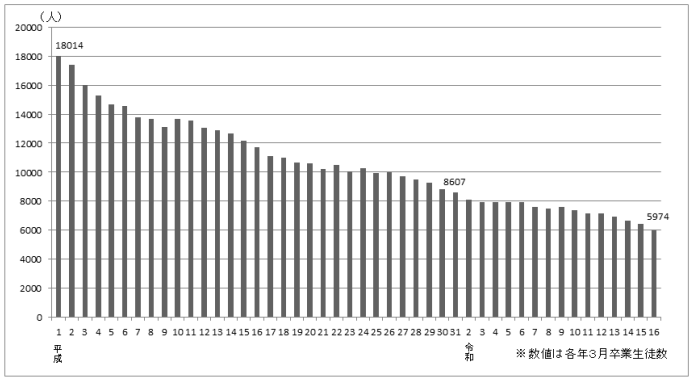
地域外や県外の高校への進学

↓

地域の活力が低下

負のスパイラル

本県中学校卒業生徒数の推移



出典：学校基本調査（文部科学省）・和歌山県人口調査
（令和2年以降は上記2調査による予測値）

4学級以下の学校
現　　在：10校（34%）
15年後：20校（69%）

教育を考える上で重視すべき２点
○一人一人の子供の願いを叶える。
○社会や時代の要請に応える。

これからの高校教育を考える上での概念(論点)の整理

高校教育への期待

○高校生：「自己のもつ可能性を伸ばし、大きく羽ばたきたい」
○地　域：「社会をリードしていく人材を育ててほしい」

高校教育システムの在り方

○今後も安定的に維持できる教育システム
○質の向上・発展を担保できる教育システム

地域に応じた高校の在り方

○特色を有した高校が数多く整備される地域
○一定規模で活気ある高校に集約する地域

今後、新たな高校の可能性として、ＩＣＴを駆使した「バーチャルな学び」と、地域(その場)の特性を生かした「リアルな学び」を組み合わせたハイブリッドな教育システムを備えた学校も想定されるようになってくる。

答申のアウトライン

学校の活力や学習環境・条件の観点から想定した望ましい学校規模(1学年6学級程度)による再編整備

（１）和歌山の子供の優れた能力を十分に発揮できる高等学校の在り方

▶大学進学状況の改善　▶アスリートの育成　▶世界に通用する、学力、文化・芸術の素養の育成

（２）「個に応じた学び」が可能な高等学校の在り方

▶全ての子供が社会で活躍するために、

高校の特別支援教育の充実、学び直しに特化した学級新設
専門的な職業教育を行う高等特別支援学校の設置

（３）本県高等学校における普通科、専門学科、総合学科の在り方

▶将来にわたって活躍できる基盤をつくる普通科・総合学科教育
▶本県産業界の期待に応える専門学科教育

（４）県内各地域の状況に応じた高等学校の在り方

▶和歌山市周辺では、特色ある複数の普通科高校と、工業科、商業科、総合学科の拠点校を整備
▶それ以外の地域では、普通科の中核校と、多様な学びが実現できる高校を整備

（５）中学校と高等学校の接続の在り方

▶将来展望をもって高校へ進学できる進路指導への転換　▶適切な入学者選抜の在り方を検討

（６）その他

地域ごとの高校の在り方(地域に応じた高校の在り方)

和歌山市

○普通科高校 を4校
○工業・商業・総合学科の拠点校 を各1校

それ以外の地域

○普通科高校を各市域(市と周辺域) に１校
○工業・商業・農業が専門的に学べる学校（または学科）を紀北・紀南 に各１つ
○多様な教育ニーズに対応するため、総合学科の教育システム等も活用
○存続の必然性が特に高い場合は適正規模にとらわれない

◆現在29校ある県立の全日制高校がおよそ2/3（20校程度）になるイメージ

重点的に行うべきこと・高校に望まれること

○和歌山の公務・教育・医療等を支える人材、教養豊かで責任ある県民の育成
➡ 県内進学と県内就職の促進、不本意な進路変更や中途退学の防止

○大学進学・スポーツ・文化芸術で核となる高校生の育成
➡ 一定規模の拠点校における専門性の高い指導、現実を直視した教員の意識改革

○次世代の地域産業を担う人材の育成
➡ 県内産業を支える人材の輩出、農業教育の充実

高校生段階での特別支援教育の充実

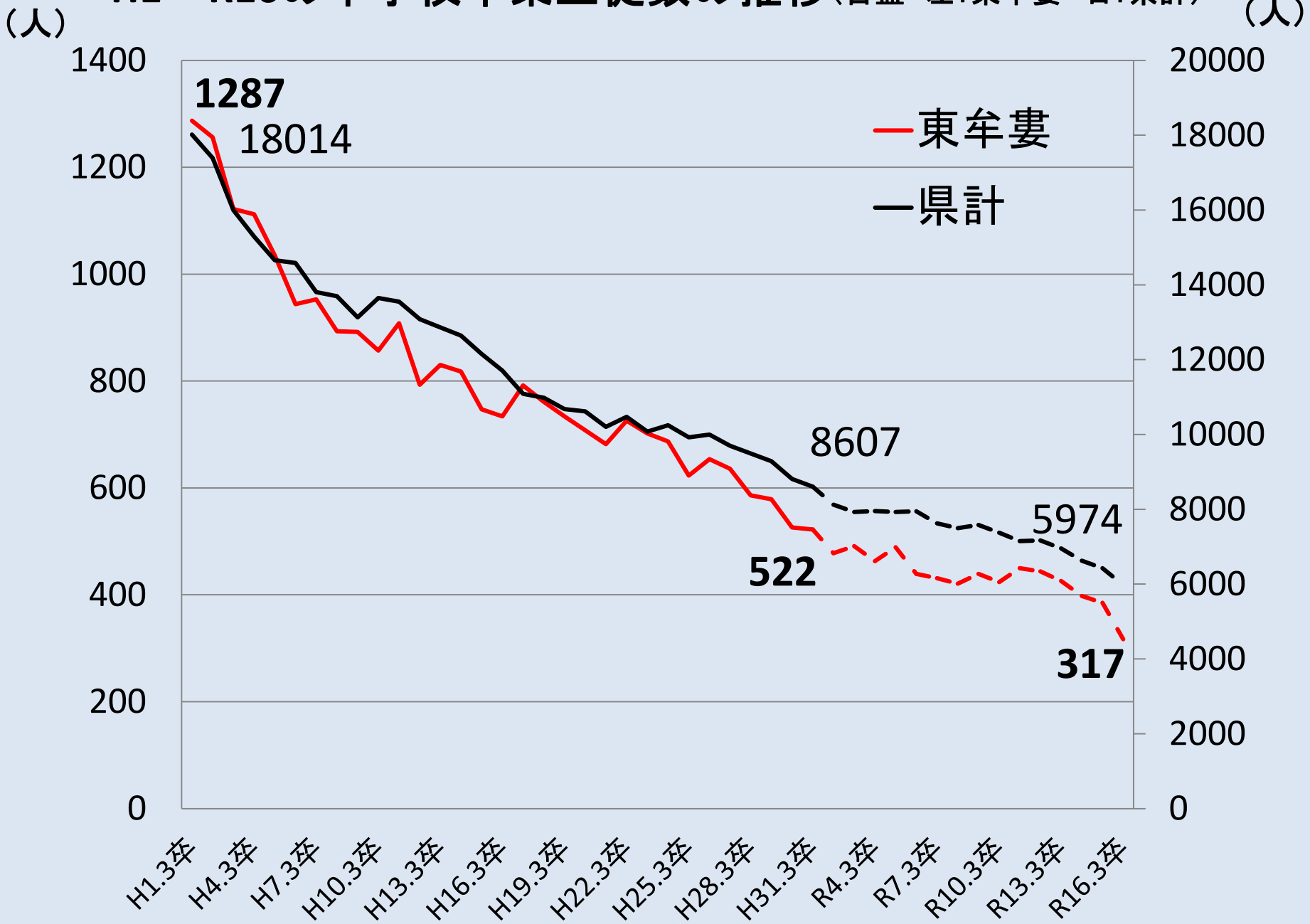
○高等特別支援学校、病弱に特化した特別支援教育の整備
○高校全日制に「学び直し」に特化した少人数学級の設置

※再編整備で生じた施設（教室の一部）を活用

中学校と高等学校の接続の在り方の検討

○中学校と高等学校が課題意識の共有。自己と向き合う教育の充実。
○「合格できる高校・学科選び」から「学びたい高校・学科選び」への転換。

H1～R16の中学校卒業生徒数の推移（目盛　左：東牟婁　右：県計）



紀南エリア（串本地域）

- 串本地域では、町の協力・支援を得て、全国募集等にも意欲的に取り組んでいる。
- 串本地域には、今後、全国募集やロケット発射場により、注目が集まる期待もある。
- 将来の生徒数から考えて、一定規模の高等学校を存続させることは難しい。
- ２学級規模の小規模な高等学校もしくは分校舎、分校として整備する必要がある。
- 今後も、生徒が安定して地元に留まるかが、学校存続の鍵となる。

紀南エリア（新宮市とその周辺地域）　①

- 人口減少に加えて私立高等学校との競合等があり、慢性的な募集定員の未充足となっている。
- かつてと比べて大学進学実績の低迷や、部活動の停滞等が顕在化している。
- 生徒の活動や多様な学びを保障するため、適正規模（1学年6学級）程度の高等学校1校に再編整備する必要がある。

紀南エリア（新宮市とその周辺地域）②

- 普通科(普通科系専門学科を併設する場合はこれを含む)と総合学科教育システムを併設し、それぞれを分校舎とすることで、学校施設の有効活用を可能にする。
- 再編整備校では、大学進学状況の改善や部活動等の活性化を図るとともに、国の普通科改革の動向を見据えながら、全国募集も可能となるような特色ある学科や教育内容を検討すべきである。
- 再編整備校には、学び直しに特化した少人数学級を併設するとともに、通信制の分校舎の設置も検討すべきである。

今後について

「答申」についての説明と意見聴取

☆地方別懇談会(9月27日～10月12日：県内5会場)

★各県立学校長を通じての意見聴取(～10月12日)

※その他、団体・機関等からの意見聴取

↓

再編整備実施プログラム案(いつ頃、どのように整備するか)作成

↓

「再編整備実施プログラム案」のパブリックコメント
(広く県民の皆様方から意見などを募集し、案に取り入れるかを検討)

↓

「再編実施プログラム」の策定(来年3月末を目標)

↓

準備・周知期間を経て、段階的に再編整備実施

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。